

2022年度

事業計画書

2022年6月

公益財団法人 ブルボン吉田記念財団

2022年度事業計画

定款第4条に掲げる事業として、下記の事業を行います。

(1)文化資料館、博物館、美術館等の設置、運営

文化資料館「ドナルド・キーン・センター柏崎」の運営。

目的:2013年9月に開館した「ドナルド・キーン・センター柏崎」の運営とその企画事業において、故ドナルド・キーン先生の執筆・翻訳・教鞭活動に関する資料の収集・展示を通じ、日本文化や日本文学の素晴らしさを再発見する場を提供する。

*ドナルド・キーン先生は、2019年2月24日(日)に逝去された。当センターでは、今後もキーン先生が取り組み続けて来られた平和への思いや日本文学、日本文化の素晴らしさを展示や講演会等を通して伝え続けていく。それまで開館以降のキーン先生の講演活動や著作・出版等については展示・紹介がなかったため、キーン先生を慕う来館者からは、開館以後のキーン先生の歩みや活動について知りたい、または日本文学研究の原点を見つめた特別企画展を常設展示化してほしい、などの声が多数寄せられていた。当センターは、これらの声に応え、英文による展示概説と英語・日本語による音声ガイドを新たに加えて、2020年度にリニューアルオープンしたが、新型コロナウイルス感染症の関係にて6月10日(水)に開館を延期となった。2021年度においても9月に約2週間臨時休館となった。2022年度においても、コロナ他制約は予測されながらではあるが、本年度の「ドナルド・キーン・センター柏崎」関連の事業計画は以下の通りとしている。

【ドナルド・キーン・センター柏崎の常設展示の運営】

目的:キーン先生の歩みや仕事を常設展示し、来館者に日本文学を愛するドナルド・キーンという人間を知ってもらうと同時に、日本文学・日本文化の面白さ・素晴らしさを発見・認識してもらう。また、ニューヨークに存在したキーン先生の書斎を復元・展示して、90歳で日本人となり、日本人として2019年2月に逝去されたキーン先生の日本への愛を感じてもらい、日本と日本人を見つめ直す場とする。

開館期間 4月1日～12月25日 休館日 毎週月曜・火曜

冬季休館期間 12月26日から3月31日

年間開館日数:193日 来館者計画:1,500人

新型コロナウイルス感染症の今後の状況や支援の有無等予測できないこともあり、来館者計画は2021年度当初の計画と同様とし、若干低いものとしている。

(2021年4月1日～2022年2月28日実績(1,914人)対比 78.4%)

(2020年6月10日～2021年3月31日実績(1,041人)対比 144.1%)

(2019年4月1日～2020年3月31日実績(3,097人)対比 48.4%)

(2018年4月1日～2019年3月31日実績(1,755人)対比 85.5%)

事業収入目標額 600,000円 (1,500人×400円=600,000円)

なお、2023年度は財団設立・センター開館10周年にあたり、記念事業を計画しており、常設展示関係では、2023年4月から新たに「高橋義樹文庫」の開設・常設展示化を予定しているが、その準備・設営等については、2022年度の1～3月の冬季休館時に行なうものとしている。

●2022年度計画

【キーン先生の日本文化・日本文学研究の「志」を広く市民の心に宿し、実践につなげる活動を行なう】

- ①キーン先生や展示内容に関連するイベント(講演会、公演会、ギャラリートーク等)の開催
- ②キーン先生の研究テーマに関する連続講座の開催
- ③センター所蔵のSPレコードやLPレコードの鑑賞会や映像資料鑑賞会の定期開催

【企画展の計画】

目的:常設展示だけでは伝えきれないキーン先生の多彩な文学研究の世界を、企画展示として紹介し、日本文学の魅力を、日本文化の素晴らしさを思い起こさせる一助とする。

2022年度は、キーン先生生誕百年にあたることから、2016年度前期に開催した企画展「写真で綴るドナルド・キーンのあゆみ」展に、更に古浄瑠璃「越後國柏崎 弘知法印御伝記」のロンドン公演・ケンブリッジの旅・キーン先生お別れの会などを撮った写真パネルを新たに加えて、日本文学研究ひとすじに歩んだ人生の道のりを紹介、その功績を改めて見つめるとともに、ボランティアの方々などとキーン先生の交流等を通じ、それぞれのキーン先生に関しての思い出や感想などを紹介するスペースも用意して、キーン先生を立体的・多角的に紹介していくドナルド・キーン生誕百年記念特別企画展「写真で綴るドナルド・キーンのあゆみ 思い出の一枚、私の一言」を開館期間内通して開催する計画としている。

【出張展示企画展(巡回展)】

他の記念館・図書館・官公庁や企業・学校等の施設にてドナルド・キーン・センター柏崎の所蔵品や過去の特別企画展にて製作した展示パネル等を一定期間貸与し、展示していただくことで、当センターの知名度向上とドナルド・キーン先生が世界に発信し続ける日本文化、日本文学への造詣を深めていただくことを目的に開催する。

前年度は、東京都北区・日比谷図書館等との連携を行なおうとしたが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり一部の実施のみに終わった。2022年度計画においては、現時点では具体的なものは無いものの、キーン先生生誕百年にて神奈川近代文学館・軽井沢高原文庫・京都文化博物館で「生誕100年 ドナルド・キーン展」が開催される他、各種イベントも予定されており、それらに対し協力他を財団・センターとして行なっていくことから、コロナ禍であるものの出張展示企画展についても働きかけを強めて進めていきたいと考えている。また教育普及活動でも記載の通りセンターHP のリニューアルもあり、展示パネル等の貸出にも積極的に取り組んでいく。

【センター主催:講(公)演会・定期セミナー等計画】

目的:常設展示や企画展の展示内容の深掘りやドナルド・キーン先生が永年にわたり、研究されてきた日本文学や造詣が深いオペラ等に関する講(公)演会セミナーを定期的で開催し、市民の文化意識の向上とともに、ドナルド・キーン・センター柏崎の持続性を高める。

2021年度については、新型コロナウイルス感染症対策を図りながら、規模縮小・遠方地からの講師招聘を取りやめ等した形にて、開催できるものは開催してきた。2022年度においてもそれらを継続していくとともに、2023年度が財団設立・センター開館10周年にあたることから、規模の大きなものは次年度に開催していく計画としている。

●2022年度計画

①講(公)演会・ギャラリートーク

キーン先生に関連した講師をお招きして開催。講演会は2022年度数回開催の予定。

会場：ドナルド・キーン・センター柏崎関連施設(ドナルド・キーン・センター柏崎大型映像ホール・(株)ブルボン研修センター3階多目的ホール等)を使用。定員：30～50名前後
受講料：無料または500円～(公益目的事業収益)

6月12日 人形浄瑠璃猿八座公演「説経 をぐり」三段目・五段目

9月11日 人形浄瑠璃猿八座公演「耳なし芳一」「貉」

10月15日 たろうの会による萩原朔太郎朗読会

[講演会]

12月25日 ローレンス・コミンズ講演会

[ギャラリートーク他]

4月1日 2022年度特別企画展ギャラリートーク

②連続講座・講演会

展示内容の深掘りや、ドナルド・キーン先生が永年にわたり研究されてきた日本文学や、造詣が深いオペラ等に関するセミナーを定期的で開催していく。会場はドナルド・キーン・センター柏崎関連施設(ドナルド・キーン・センター柏崎大型映像ホール・(株)ブルボン研修センター3階多目的ホール等)を使用。定員：30～50名前後

[連続講演会「ドナルド・キーンが遺したもの」]

7月23日：「ドナルド・キーンが遺したもの」第13回

講師：中津 義人 ドナルド・キーン・センター柏崎副館長

受講料：無料(ただし入館料は必要)

11月19日：「ドナルド・キーンが遺したもの」第14回

講師：中津 義人 ドナルド・キーン・センター柏崎副館長

受講料：無料(ただし入館料は必要)

[大型映像で映像ライブラリーを観る会]

2021年より新たなイベントとして実施している、これまでの講演やイベント活動を記録し当センターで映像ライブラリーとして2020年度に整理・再編集の上保管・活用しているものを、大型映像ホールで上映・鑑賞する会を2022年度も継続して定期的で開催する計画としている。

4月から12月まで、毎月1回開催 時間等は未定、受講料：無料(ただし入館料は必要)

会場は、ドナルド・キーン・センター柏崎大型映像ホール

③「クレデンザを愉しむ会」(ボランティア主催)

柏崎市内のSPレコード愛好家のご協力を得て、キーン先生が愛したオペラの名曲を中心に蓄音機「クレデンザ」を使用して懐かしくも新鮮な音を楽しむ会としてボランティア主催にて開催。

4月から12月まで、毎月1回開催 13時30分～14時30分

会場は、ドナルド・キーン・センター柏崎1階ロビー

【教育普及活動】

①センター所有のパネル・バナー等の貸出

新たな取組みとして、過去センターで実施した企画展パネル・バナーをリニューアルしたセンターHPを使って希望者・団体・施設等に貸し出す。壁に掛けられる形態のため手軽にパネル展が開催できる。学芸員が施設等を訪問し、レクチャーや講演会を実施することも可能とする。

②小中高校生向けの授業の一環としての「勉強会」の開催

「柏崎学」の一環として柏崎市教育委員会に協力要請。

ドナルド・キーン先生の「人となり」について、小学校(国語、道徳)、中学校・高校(英語)の教科書に取り上げられていることをきっかけとして、各学校に対し、案内を行ない来館につなげる。(勧誘する地域は、今年度は、柏崎市とする)勉強会は事前申し込み制として、副館長又は学芸担当他スタッフが説明にあたる。なお、見学料は無料とする。

③柏崎高校探求授業等への協力

2019年度実施の探究授業や2020年度実施の柏崎高校キャリア教育「職業人講演会」講師派遣への協力実施を本年度も進める。柏崎高校だけでなく、他の学校にも紹介して拡げていく。

【研究活動計画】

①展示資料及び収蔵資料のデータ化の完成とHP上での情報公開をすすめる

②展示資料及び収蔵資料についてのキーン先生とのつながり(縁)の調査をすすめる

③キーン先生の過去の講演録及び映像の一覧化をすすめる

④財団報・10周年記念誌の作成準備～発刊(2023年9月を予定)

※外部の方と編集・制作業務委託契約を締結し、進行していく計画としている

【PR活動計画】

①柏崎市内の商店及び事業者への企画展ポスター、チラシの配布と掲示活動

柏崎市内での周知向上を図る目的で、ボランティアの皆様の協力を得て実施する

②新潟県人会・旅行会社・賛助会員(法人・個人)等に向けて、パンフレット等を発送

③柏崎市の観光タクシー「ちよっ得タクシー」への協力(4月1日～12月25日)

④柏崎コミュニティ放送「柏崎発! ドナルド・キーンの世界」の継続により、地元での当センターの周知とキーン先生の理解度を深める

⑤㈱ブルボン及び同社取引先への再告知・来館誘導推進

⑥広告掲載(投入)

・ラジオ広告 2019～2021年度は実施していなかったが実施に向けて再検討する

・県内テレビ局タイアップ企画 実施に向けて検討する

・新聞広告 新潟日報 2022年4月、8月、10月、12月 2023年3月

柏崎日報 2022年4月、8月、10月、12月 2023年3月

読売・朝日新聞について、県内広告代理店枠を利用した掲載を随時継続する

※柏新時報は2022年3月をもって発刊が終了しました。

・その他、観光・旅行雑誌等への掲載を随時検討するとともに、新たな媒体掲出を積極的に検討・実施していく。期初は新型コロナウイルス感染症の状況もあり、基本的に近郊・新潟県内に向けての発信に注力していく

【地域連携への強化活動】

目的:ドナルド・キーン・センター柏崎が有するキーン先生由来のコンテンツを市民の皆様には有意義に活用していただき、文化意識の向上に貢献する。

●2022年度計画

- ①「猿八座」及び朗読会グループ「かしわざき朗読サークルたろうの会」公演開催の協力
- ②柏崎市内で開催される「文化事業」等への「後援」又は「協力」の名義貸し

【ボランティア組織の活動への協力】

ドナルド・キーン・センター柏崎の日々の運営に協力していただいているボランティア組織のイベント活動への協力及びボランティアの皆様のご協力を得ることで当センターの周知と集客につなげる。

(主な協力内容)

場所の提供、HP等での告知、イベント参加者の展示見学希望者への団体割引適用

(計画されているイベント等)

ロビー展示会(年6回程度計画)、読書会の開催(年5回程度計画)

(協力依頼内容)

展示案内、ポスター配布等イベント広報活動(FMピッカラ「ドナルド・キーンの世界」への協力含め)、各種イベントの計画実行、センター主催イベントの実行委員参加、他

【褒賞事業への取り組み】

ドナルド・キーン先生の研究の功績の顕彰だけでなく、次世代の育成や日本文学の研究・地域貢献を目的とした「褒賞」事業を推進する。

前年・前々年度は諸般の事情でほとんど進展することができなかったが、本年度の事業においては、これまでの計画を踏襲しつつも新たな考えを加えつつ、以下の活動を開始する予定。

●2022年度計画

- ①外部含め情報収集と事務局案の作成、外部阻害要因等の特定
 - ・褒賞事業内容案及び事業実施の為の組織案作成
 - ・工程表の作成、外部協力者(団体)の特定
- ②2022年度第2回理事会(6月開催)での議案提出・審議・決議承認
- ③褒賞事業事務局経費として予算計上(10～3月にて150千円/月)

(2)学資金の貸与又は給付

学力優秀でありながら経済的な事由等により修学が困難な学生に対する奨学援護。

目的:奨学事業を通じて、次世代を担うグローバルな人材の育成や公衆の教養の向上、心身の健全な発展に寄与する。

●2022年度計画

①奨学金の貸与

4月分から毎月15日に本人預金口座に振込む。

下記学年は新学年(※①は留学による貸与休止期間終了後復学した貸与継続者、※②は留年による貸与継続者)

1年生については、第一次合格者(辞退者1名を除く)+補欠候補者からの繰上げ合格者1名にて記載(3月31日現在)

人員については、4月にて貸与辞退者(1名)を除き、年間貸与額については、4月実績を含む(5月31日現在)

対象者	人員(2月末現在)	1名当年間貸与額	年間貸与額
大学院生	1年次 (1名)	月額 30,000 円×12 か月 = 360,000 円	360,000 円
大学生	5年生(2名※①、※②)	月額 30,000 円×12 か月 = 360,000 円	720,000 円
	4年生 (21名)	月額 30,000 円×12 か月 = 360,000 円	7,560,000 円
	3年生 (18名)	月額 30,000 円×12 か月 = 360,000 円	6,510,000 円
	2年生 (25名)	月額 30,000 円×12 か月 = 360,000 円	9,000,000 円
	1年生 (28名)	月額 30,000 円×12 か月 = 360,000 円	10,080,000 円
	合計 95名		34,230,000 円

②奨学金の返還

- ・2022年3月卒業生を対象に、奨学金借用証書及び返還予定書を提出指示
- ・2021年度以前の卒業生を対象に、奨学金の返還指示及び諸通信の連絡
- ・2022年度返還額予定額(返還予定書より算出) 22,443,830円(2022年3月31日現在)

③第47回(2023年4月進学)奨学生募集活動計画

- ・募集人員:大学生25名
- ・募集要項の発送 9月下旬
- ・対象校:高等学校 841校 新潟県 141校 山形県 76校 長野県 127校 福島県 122校
青森県 87校 秋田県 72校 岩手県 95校 宮城県 121校
- ・募集締切:2022年12月下旬
- ・第一次選考委員会:2023年1月下旬
- ・第一次選考委員会にて定員未達の場合は、二次募集を行う(締切は2月28日)
- ・1月下旬に選考結果を通知し、第一次合格者および補欠候補者からの繰上げ合格者のうち進学決定者を採用し、4月上旬に決定する

(3)文化芸術・スポーツ等に関する振興活動

目的:教育及び文化・芸術・体育等への振興に関する助成・協賛を行い、広く、教養の向上及び心身の健全な発展に寄与する。

① 文化芸術・スポーツ振興に対する助成事業(公募)

目的:文化芸術・スポーツイベントへの助成を通して、次世代への継承や次世代の育成及び公衆の心と身体健康増進に貢献する。

●2022年度計画

本年度においても、例年通り実施する。

- ・予算 文化芸能振興助成事業 200千円 体育等振興助成事業 200千円
- ・対象 各事業とも応募状況が多くなっていることもあり、予算枠を増やして計画する。応募状況・事業内容により予算金額の範囲内で変更の可能性あり
- ・2022年3月理事会にて、公募の承認
- ・HPにて公募(3月～5月)
- ・5月開催の理事会での選考・承認
- ・該当団体に助成金の給付

②外国人留学生への研究助成事業

目的:次世代を担う外国人日本文学及び日本文化研究者の育成に貢献する。

●2022年度計画

本年度においては、運営資金・運営要員の不足という実情を踏まえ、前年・前々年度計画しておりながらコロナ禍等もあり、具体的活動にすることができなかった以下の活動を開始する。

- ・研究助成のプログラム内容の作成
- ・優秀な外国人留学生の選考及び受入れ先となる団体の選定
(候補:東京日本語学校、国際交流基金等)
- ・理事会への進行状況の報告

(4)公益目的事業に関連する物品販売(収益事業)

当財団の公益事業における「ドナルド・キーン・センター柏崎」にて、センター専用商品として製作したオリジナルグッズやキーン先生関連の著作本や翻訳本をセンター内にて販売する。

[販売商品]

- ・当センターオリジナルデザイン付きグッズ、図録の販売
- ・当センターの専用ロゴ(キーン先生直筆)を印刷した商品の販売
- ・キーン先生及び関連の著作本・翻訳本の販売

[目標値]

購入者目標人数 300人

(1,500人×20.0%:2021・2020年度の購入者比率実績(17.6%・19.0%)より)

事業収入目標額 495,000円

(300人×1,650円:2021・2020年度の1人当購入金額実績(1,674円・1,691円)より)

(5) 管理部門の計画

- ① 事務局内人材(学芸員・事務員とも)及び施設管理者・後継者の育成
- ② 安定した財団運営のための事業資金の調達と資産の整備
- ③ 地元主導、地元への貢献体制の確立
- ④ 一般財団法人ドナルド・キーン記念財団他外部関係団体との協力体制強化
- ⑤ 新型コロナウイルス感染症・防災等への更なる対応・リスク管理徹底
- ⑥ その他